

第3回小樽市新総合体育館整備検討委員会 議事録

開催日時：令和4年10月17日（月）10：15～12：00

開催場所：小樽市教育委員会第1会議室

出席状況 ○委員・・・11名

中川委員長、柴田副委員長、岡崎委員、吉田委員、岡本委員、鍛冶委員、長谷川委員
奥山委員、堀口委員、渡邊委員、廣瀬委員

○教育委員会・・・7名

林教育長、薄井部長、鈴木次長、近藤主幹、富樫課長、原田主査、浪岡主事

○株式会社建設技術研究所（委託業者）・・・3名

1. 開会

2. 議事

I 報告事項

(1) 先行事例の追加報告について

- ・ 【事務局】資料1「先行事例紹介」について説明。
- ・ 【委員】視察事例（帯広市総合体育館）は、あまりにも立派すぎて小樽市の参考にはならないように感じた。面積や駐車場規模等の点において小樽市の計画とは大きく異なる。ただし、個々の部分で取り入れたいものは多くあった。
- ・ 【委員】視察では、通常は行政の担当者が説明されるが、運営事業者の説明をいただいた。運営事業者が設計時から関わることで、施設計画に運営事業者の意見が取り入れられていた。キッズルームや夜間利用のための出入口の設置などが参考になった。現総合体育館は子どもの利用がほぼないため、幅広い年代の方が利用できる体育館が新鮮に感じた。
- ・ 【委員】可動式観客席の導入によるスペースの有効活用、研修室の防音仕様（視覚障がい者の競技にも利用可能）など、多目的に利用できるような計画をしている点は参考になると感じた。
- ・ 【委員】帯広市のプールは非常に広い上、天井が高く、暖房費が非常にかかるように感じた。家族で利用できるキッズコーナーの設置は非常によい。

(2) アンケート調査結果について

- ・ 【事務局】資料2「アンケート調査結果」について説明。
- ・ 【委員】事業予定地である旧緑小学校跡地は、河川が隣接しており、現総合体育館よりも標高が低いが、災害時の避難場所としての機能に問題はないか？また、駐車場台数の確保について、何らかの対策が必要ではないか？
【事務局】過年度策定した長寿命化計画では、駐車台数190台を確保できる計画である。標高は62.7mであるため、現総合体育館より低くなるものの、ある程度の標高は確保できている。また、於古発川は支流であるため、突然、流量が増えることは考えにくい。
【委員】中体連・高体連では190台あれば対応可能と思われる。
- ・ 【委員】地域の中心の体育館となる絶好の機会と思われる。大型バス用の駐車スペースを確保することを検討してほしい。
【事務局】大型バスの駐車場は、3台分確保している。

- ・【委員】アンケート調査結果より、市民は将来を見据えた体育館を希望しており、その希望に応える計画とする必要がある。
- ・【委員】託児室を希望する人が13.5%というのは意外と多かったと思っているので、設置を望まれる方が多いと想定される。
【委員長】託児室は常設ではなくてもよいか？
【委員】常設にしていきたい。子育てサポートセンターがあるため、保育士の派遣等の協力が可能である。事業者にも、託児を行う企業を連れてきてもらうことも考えられる。託児室は災害時にも活用可能である。
【委員長】帯広市総合体育館では、託児室は設置されていなかった。
- ・【委員】アンケート調査結果ではコンサート・イベント開催の希望があるが、それらは市民会館等で実施すべきである。
【委員】反対である。コンサート・イベントは積極的に実施してほしい。
【委員】今後、他の公共施設の更新が必要となってくることを鑑み、新総合体育館は多目的に利用できるようにすべきである。収入源を増やすためにも多様なイベントができることが重要である。
【委員】コンサート・イベントについては、10代・20代の回答が少ない中でも希望が多く、実施できるようにした方がよい。ただし、コンサート・イベント開催時に、駐車場が不足する可能性がある。
- ・【委員】帯広市総合体育館の視察の際に、さらに良い体育館にするためにどうしたいかを質問したところ、さらにキッズスペースが必要とのことであった。子育て世代に如何に来てもらうかを考える必要がある。札幌エルプラザの託児室はよく利用していた。子どもたちが自由に安心して過ごせるスペースを整備することが将来につながると思われる。
- ・【委員】体育館に親子で行ったときに、現総合体育館はできないことがない。アリーナのような広いスペースは必要ないため、親子で運動できるような場所があると行きやすい。

(3) その他の前提条件について

- ・【事務局】資料3「その他の前提条件」について説明。

II 協議事項

(1) 基本理念について

- ・【事務局】資料4「基本理念」について説明。
- ・【委員】全国・全道大会が開催できる体育館を想定するのか、または地区大会レベルとし一般利用に重きを置くのかなど、目指す体育館像によって異なると思われる。
【事務局】後に説明・検討していくこととなるが、アンケート調査結果、本市の財政状況を踏まえると全国大会規模は難しいと思われる。地区大会でどこまで開催できるかを探っていくこととなる。
- ・【委員】中体連・高体連は北海道・東北ブロックとなっているため、小樽市で全国大会開催を想定する必要はないと思われる。
【委員】体操は過去4回全国大会を実施している。
- ・【委員】案1、案2に「スポーツ拠点」とあるが、「スポーツ」という言葉に拒否反応を示す方もいる。小樽の人が誰でも来てもらえる施設として、健康寿命を延ばすことを重視すべきである。
- ・【委員】3案の中から1つに絞るのか？
【委員】どの案であっても、4つのキーワードが入っている。
【委員】3案すべてでもよい。
- ・【委員】基本理念であるため、シンプルで分かりやすいものがよい。スポーツ拠点は、「健康拠点」などの文言にすることでどうか？

【委員】案2を利用し、最後の「スポーツ拠点」を変更することがよいと思われる。

【委員】同意。

【委員】案3は長いと感じた。案2の最後を「健康拠点」に変えることがよいと思われる。

【事務局】「誰もが集い 未来へ続く 健康創出拠点」とすることでどうか？

【委員】「健康拠点」でよいと思う。

【委員長】「誰もが集い 未来へ続く 健康拠点」でよろしいか？

【委員一同】異議なし。

(2) 基本方針について

・ 【事務局】資料4「基本方針」について説明。

・ 【委員長】承認いただいたということによいか。

【委員一同】異議なし。

(3) 規模・機能について

・ 【事務局】資料5「規模・機能について」説明。

・ 【委員】アンケート調査結果では、「体育館をほぼ利用しない」が87%である。このような方に体育館を利用してもらうことが重要である。個人的に、スポーツジムを利用しているが、施設に温浴施設があると現在利用していない人が利用しやすくなると思われる。

・ 【事務局】プールの公認・非公認、プールの水深調整方法について説明。

・ 【委員】公認プールとした場合には、歩行プール・幼児用プールを接続できないということか。

【事務局】お見込みのとおり。

・ 【委員】シンクロナイズドスイミング、古式泳法等を実施している団体より、深いプールの要望があったと記憶しているが、現在要望はないか？

【事務局】古式泳法の団体からは要望が出されている。

・ 【委員】小樽市の中で公認を求める声が多いのか？

【事務局】競技団体からは要望がある。競技団体としては、競技は公認プールでやるべきとの考え。そのことが、選手のモチベーションにもつながると思われる。

・ 【委員】小樽市で大会を開催するメリットは大きいのか？

【事務局】大会の頻度はそれほど多くないため、公認プールとすることによる経済効果はそれほど大きくはないと思う。

・ 【委員】水泳協会としては要望があると思うが、費用対効果を鑑み、中体連・高体連としては公認でなくても問題ない。

・ 【委員】公認プールでなくても大会は開催可能であるが、記録が公認記録として認められない。そのため、競技実施者のモチベーション向上のため、要望があると思われる。

・ 【委員】競技団体としては熱い思いがあると思われる。

・ 【委員】公認プールとした場合も、水深を調整すれば、ウォーキングができるということか？

【事務局】お見込みのとおり。

【委員】入水用スロープは設置できないのか？

【事務局】2018年の改定により設置できないこととなった。

【委員】代替案はないのか？

【事務局】現時点では思いあたらない。

・ 【委員】幼児用プールは別に設置する必要がある。

【委員】人口規模、身の丈にあった規模とする必要がある。

・ 【委員】高島小学校温水プールは継続するのか？

【事務局】学校プールとしては存続する。

- ・ 【委員】そもその発端としては、小樽市に市民プールがないためプールを整備してほしいとのことであったと思う。「健康増進」というコンセプトを決めた中で、施設整備費等も含め検討が必要。
- ・ 【委員】入水用スロープの代わりに、移動式のプールリフトを設置する方法も考えられる。
- ・ 【委員】水深を深くすれば、その分維持管理費も必要になる。一般が利用できる深さでよいのではないか。
- ・ 【委員長】規模・機能については、次回も継続して協議を行うこととする。

3. その他

- ・ 【事務局】第4回整備検討委員会は11月7日14時～開催予定。

4. 閉会